

## 新 高等学校における通級指導教室の設置について

特別支援教育課

### 1 現状

- 高等学校における発達障がい診断のある生徒は、小中学校同様、年々増加している。
- 現在、こうした生徒への支援体制は小中学校と異なり、高校ではほとんどなく、体制確立は喫緊の課題となっている。
- 国は平成 30 年度から高等学校における通級による指導を制度化する。来年度、40 近くの都道府県と 3 政令市で実施を予定している。

	小中学校 (H29 年度)	高等学校 (H29 年度)
発達障がい在籍率 (人数)	小学校 4.3% (4,636 人) 中学校 4.2% (2,344 人)	医師の診断あり 2.22% (1,099 人) スクリーニング 2.44% (1,164 人)
自閉症・情緒障がい学級在籍率 (人数)	小学校 2.6% (2,761 人) 中学校 2.7% (1,546 人)	なし
通級による指導 設置数	小学校 34 教室 中学校 5 教室	モデル校 1 校 (H29 年度 終了)
巡回支援 (特別支援学校のセンター的機能の活用)	35 人 (自情障学級を巡回)	なし
特別支援教育支援員配置数	小) 823 人 中) 216 人	なし

- ・ 高等学校のスクリーニングは、チェックシートを用いて複数の教員により判断

### 2 対応

- 平成 30 年度 2 校 (箕輪進修高校、東御清翔高校) に通級指導教室を設置  
両校に専門性の高い教員を 1 名ずつ配置

担当教員の業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象生徒への直接的な指導・支援</li> <li>・ 校内の支援体制整備</li> <li>・ 在学中からの外部機関 (教育、労働、福祉、医療等) との連携促進</li> </ul>
担当教員の専門性向上に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門性の高い外部専門家 (大学教授等) による指導・助言</li> <li>・ 高校巡回支援担当者 (特別支援学校のセンター的機能) による指導・助言 (H30 年度: 2 名)</li> <li>・ 全国指導者協議会での先進的な取組・事例研究による実践力向上</li> </ul>

### 3 効果

- 専門性の高い教員による生徒の特性に応じた指導・支援を通して、生徒の自己肯定感やコミュニケーションスキルが向上
- 通級担当教員を中心とする生徒の事態把握に基づく校内支援体制づくりの充実
- 在学中から外部機関との連携促進による切れ目のない支援体制づくりの構築